

## <授業実践3>「俳句に親しもう」(言語文化 第1学年 2学期)

### 1 実践にいたる背景

共通必修科目「言語文化」は、先人の築いた伝統と文化への理解を深め、社会人として生涯にわたって生活するために必要な国語の資質・能力の基礎を確実に身に付けることをねらいとする科目である。

〔知識及び技能〕においては「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の2事項を、〔思考力、判断力、表現力等〕においては、「書くこと」「読むこと」の2領域を扱う。

また、「言語文化」履修後の選択科目である「文学国語」では、「言語文化」で身に付けた資質・能力を活用し、発展的な内容を扱う。特に「書くこと」の領域では、指導事項ウ「読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること」、指導事項エ「読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること」とあり、読者の視点から筆者の視点への移行を促しているといえることができる。

「言語文化」においては、我が国の言語文化を継承する担い手として、先人の築いた伝統と文化を尊重し、幅広い知識や教養を活用しなければならない。〔思考力、判断力、表現力等〕において、表現力の育成を目指すため、和歌や俳句などの詩歌の表現・技法に注目し、それを実際に使った文章を書かせることでその効果について理解することができるのではないかと考えた。また、古典と生徒自身の身近な体験を結び付けさせることにより、いっそう古典に親しみやすくなるのではないかと考え、本単元では「言語文化」の「書くこと」の指導事項(1)イに主眼を置き、実体験や思いを効果的に相手に伝えるための語句選択、描写について書かせることとした。

### 2 指導目標

#### (1) 単元の目標(下線部: 関連する学習指導要領の指導事項)

・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。

(〔知識及び技能〕(1)オ)

・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。(〔思考力、判断力、表現力等〕A書くこと(1)イ)

#### (2) 言語活動

##### ア 言語活動

本歌取りや折句など用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり、伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで、随筆などを書いたりする活動。(〔思考力、判断力、表現力等〕A「書くこと」(2)ア)

##### イ 言語活動のねらい

自分の知識や体験として蓄積してきたものから、言語文化の特質に関わりの深いものを選ばせる必要がある。特に、四季の変化はもちろんのこと、自身が体験したものを題材として選択することで、適切な表現を探し求める試行錯誤が活発になると考えられる。

また、伝えたいことを箇条書きするなど、視覚化することで、表現したいことがより明確になることに気付かせたい。

#### (3) 教材

##### ア 教材

松尾芭蕉『笈の小文』(小学館新編日本古典文学全集『松尾芭蕉集』) ※『あいち文学散歩』所収

## イ 教材観

本教材は俳諧紀行文であり、松尾芭蕉が実際に体験したことを基に俳句を詠んでいるものである。

特に今回扱う部分は地元愛知県を舞台としたものであり、生徒も関心をもちやすい部分である。また、俳句の表現として、心中語を用いない句と心中語を含む句が出てくるが、そこに込められた思い自体は表出されていないので、生徒にも余韻を含ませる俳句を詠ませたい。

### (4) 主体的・対話的で深い学びの工夫

自らの人生において体験した喜怒哀楽の出来事を題材とすることで、古典に対する忌避感を薄れさせたい。また、17音の中に自分の思いを表現するためには、一つ一つの言葉を慎重に吟味する必要があるため、表現に対する意識の向上を目指した。

## 3 評価

### (1) 単元の具体的な評価規準

知識・技能	思考・判断・表現（書く能力）	主体的に学習に取り組む態度
本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。	積極的に自分の体験した出来事から印象的なものを探し出し、学習の見通しをもって、自分の思いを効果的に表現できるように言葉の選択をしながら俳句をつくらうとしている。

### (2) 評価方法

ア 知識・技能

ワークシートの俳句

イ 思考・判断・表現（書く能力）

	評価A	評価B	評価C
自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、俳句の表現の仕方を工夫している。	俳句が自らの体験に基づきつくられており、言語表現の他に余韻として感情が表現されている。	俳句が自らの体験に基づきつくられており、俳句内に感情語が含まれている。	俳句が自らの体験に基づきつくられている。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

	評価A	評価B	評価C
積極的に自分の体験した出来事から印象的なものを探し出し、学習の見通しをもって、自分の思いを表現できるように言葉の選択をし	積極的に実体験の中から自分の思いを俳句として効果的に表現しようとしている。	積極的に実体験の中から自分の思いを俳句として表現しようとしている。	実体験の中から自分の思いを俳句として表現しようとしている。

ながら俳句をつくろう としている。			
----------------------	--	--	--

#### 4 単元の指導計画（配当2時間）

次／時間	学習活動	言語活動における指導上の留意点	◇評価規準 ◆評価方法 *努力を要する状況と評価した生徒への支援の手だて
第1次 (1時間)	①松尾芭蕉についての文学史上の知識を得る。 ②蕉風の文学を理解する用語の知識を得る。 ③『笈の小文』本文、「鳴海にとまりて」～「鷹一つ見付けてうれしいらご崎」までの読み方や単語の意味を確認する。 ④内容を把握する。 ⑤自分の体験したことの俳句をつくる。	①教科書や国語便覧を使い、松尾芭蕉の生涯や文学史上の位置付けを確認させる。 ②範読し、指名読みさせる。 ③助動詞の意味を確認させる。  ④俳句の基礎知識（季語など）を確認させる。	◇知識・技能 ◆記述の点検 (ノート)
第2次 (1時間)	①前時までに作成した俳句を推敲する。 ②他者の俳句を評価して、下の句をつくる。	①自分の俳句をつくるに当たり、完成までの経緯を残させる。 ②俳句作成後、どのような感情が含まれているのかを基にして、他者の俳句に七七を付けさせる。	◇思考・判断・表現 ◆発言・行動の観察 (ワークシート)

#### 5 学習活動の実際

実際の活動として、生徒自身は、自身の体験と合致する季語選びや、心中語を使わずに表現するための言葉選びに苦勞をしていたように見受けられる。しかし、推敲をすることを通して、言葉自体のもつイメージに気付き、よりよい言葉を選ぼうとしていた。

また、七七の下の句を付ける段では、俳句をつくるよりも難しいという声も聞こえた。「言語文化」よりも「文学国語」がより高度であることを示していると言える。

実質、第1次と第2次の間の宿題とした部分もあるので、3時間ほどかけた授業実践となった。

#### 6 研究の成果と課題

「言語文化」の科目は、実際に「書くこと」を通して、〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関

する事項」にも強く影響を与えていることが分かる。今後、評価については、より観点を明確にしたものが求められることが考えられるので、授業自体も明確な目標をもって構築していかなければならないと感じる。

# 俳句をつくらまい！！

年 組 番 氏 名

1 今までに自分が体験したことの中で、印象に残っている感情（恋愛・怒ったこと・嬉しかったことなど）を挙げよう！

例 高校の秋・失恋して つらい	
例 冬・鹿児島への旅行 が楽しかった	

2 1の中から一つ選び、その題材にふさわしいイメージの季語を考えよまい。

3	2	1

3 2の中から一つ選んで俳句をつくらまい！（消しゴムを使わない！！）

完成	推敲	最初	上の句	中の句	下の句

4 右の完成した俳句に、下の句（七七）を付けよまい！

出席番号	

5 ルーブリック

	知識・技能	評価の観点
	知識・技能	季語を使って俳句をつくり、感情を表現しているか。
思考・判断・表現	自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、俳句の表現の仕方を工夫している。	A 季語を用いており、自分の思いを感情語を用いず表現している。 俳句が自らの体験に基づきつくられており、言語表現の他に余韻として感情が表現されている。
主体的に学習に取り組む態度	積極的に自分の体験した出来事から印象的なものを探し出し、自分の思いを表現できるように言葉の選択をしながら俳句をつくらうとしている。	B 季語を用いており、感情語を用いて表現している。 俳句が自らの体験に基づきつくられており、俳句内に感情が含まれている。
		C 感情語だけの表現になっている。 俳句が自らの体験に基づきつくられている。

評価用シート 出席番号

俳句から感情は伝わった？	1	3	5
体験に即した感情だった？	1	3	5
感情に即した季語だった？	1	3	5
よい俳句？	1	3	5
上の項目にないけれど、よかった所！！			
・ ・ ・			